

2018年度

～北海道SJCD第4回例会のご案内～

SJCD (Society of Japan Clinical Dentistry) とは臨床歯科医学の基礎の確立と最新歯科技術の習得・研鑽、医術の向上、ならびに医療人として人格形成に努力し、国民の健康管理に顎口腔系を通じて寄与する目的のために1980年代に設立されたスタディーグループです。

北海道胆振東部地震により被害を受けられました皆様に心からお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。さて今年SJCDは30周年を迎えました。現在その支部組織は全国12地域に存在し日本歯科界のスタディーグループではトップの会員数にまで成長し、世界においてもトップ3に入っております。その中で北海道SJCDも年4回の例会を通じ地域医療に貢献すべく日々研鑽を積んでいます。そこで今回、東京SJCD副会長の大河雅之先生を招き現在の審美歯科治療の最前線についてお話しいただき非会員の皆さんにも聴講して頂く機会を設けました。

多数の御参加を心よりお待ちしております。

北海道SJCD

日時 2019年1月20日(日) 10:00～16:00

場所 北海道歯科医師会館 大講堂
札幌市中央区北1条東9丁目11

テーマ MI Esthetic 審美修復治療の最前線

参加費 SJCD会員 無料

歯科医師 \ 15000

開業DT \ 7500

勤務DT,DH,DA \ 5000

歯科系学生 無料

(学生証の提示をお願いいたします)



講師

東京SJCD副会長

大河 雅之先生

(代官山アドレス歯科クリニック院長)

お申込み FAX 011-581-0100 にこここ歯科 宛

お名前	勤務先
御住所	
ご連絡先 (Phone)	(Mail) (Fax)

～お問い合わせ先～

北海道SJCD事務局 にこここ歯科

phone 011-581-0111

sjcd@hokkaido-sjcd.com

北海道SJCD 第4回例会事前抄録

演題

MI Esthetic (審美修復治療の最前線)

抄録

現在、審美修復治療はバイオメテック(生体模倣)アプローチという考え方が浸透し、できるだけエナメル質と歯の構造を保存する接着修復が世界的に潮流となってきている。接着技術の進化とインプラントの登場の恩恵によりクラウンやブリッジ修復における従来型の保持形態、抵抗形態付与のためのアグレッシブな支台歯形成は、前歯のみならず臼歯においても、今やそれらの再治療時のみに用いられるべきである。つまり現段階では歯の硬組織と歯髄の再生が困難である以上、治療侵襲は必要最小限にとどめ、残存する歯の構造と組織を温存し天然歯固有の優位性を最大限に生かすことにより生物学的、構造的、機能的、審美的特性を天然歯に近似させ再現させることが修復治療の目的となる。これこそがMI修復治療の正体なのである。また顔貌から抽出する治療計画立案 (Facially Generated treatment planning) は審美修復治療には必須である。前歯を含む修復治療計画立案においては、審美のガイドラインが確立され、歯や歯列の診査の前に、顔貌や口唇と歯の関係の審美分析を行うことは必須となっている。本講演では①MIを考慮した治療計画立案とボンデッドセラミックレストレーション(BCR)の中長期的予後についての考察。②BCRにおける顕微鏡の有効性。③臼歯のBCRの考え方とマテリアルセレクション。④最新のデジタルテクノロジーを応用したMIフルマウスリハビリテーション。⑤デジタルデンティストリーの診査、診断と治療方針決定への機器としての発展。など審美修復治療の最前線について臨床症例を用いてお話ししたい。

講師



大河 雅之先生

1962年 岩手県出身
1987年 東北歯科大学卒業 (現：奥羽大学歯学部)
2001年 代官山アドレス歯科クリニック開院
日本臨床歯科医学会 (SJCD) 東京支部副会長
奥羽大学歯学部同窓会本部学術部長
EAED(ヨーロッパ審美歯科学会)会員
AMED(米国顕微鏡歯科学会前理事)
日本歯科審美学会認定医